

数のまとまりを意識し数えることの指導 ～課題プリントや操作的活動を行った事例～			
学部・教科	小学部・算数科	事例コード	2406
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> 小学部5年（4名） 50までの数唱や数え方、1位数の加法や減法（答えが10以下）などを学習してきている。 数字を正しい書き順で書けなかったり、30までの数唱が身につけていなかったりする児童がいるなど、実態に個人差がある。 		
単元(題材)名	『大きなかず ～120まで～』		
学習指導要領の内容	算数科／小学部3段階 A数と計算 ア 100までの整数の表し方に関わる数学的活動 (ア) ㉞㉟㊱、(イ) ㊲		
単元(題材)の目標	知識及び技能 ものともとの対応させることによって、ものの個数を比べ、同等・多少が分かる。 ものの集まりと対応して、数詞が分かる。 個数を正しく数えたり書き表したりすることができる。【Aア(ア) ㉞㉟㊱】	思考力・判断力・表現力等 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすことができる。【Aア(イ) ㊲】	学びに向かう力・人間性等 数量の違いを理解し、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。【小3段階A目標ウ】
単元(題材)の計画	「大きなかず～120まで～」(総時数8時間) 1 120までの数を数唱したり、書いたりする。 2 10のまとまりと端数に分けて数を数える。 3 120までの数をブロックで表す。		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> 1について、実態によって扱う数の上限を変えながら、可能な児童については段階的に120まで増やしていった。児童によって、「5、7、8、9」などの正しい書き順について確認した。一連の指導を通して、正しい書き順で数字を書いたり、30までの数唱が定着したりすることができた。 2について、実態によって扱う数の上限を変え、実態によっては扱う数を20までとした。指導を通して、10のまとまりについて、「10、20、30…」と言いながら数えられるようになった。 3について、各自が工作用紙で自作したブロック教材を使用するとともに、好きな「おやつカード」を選んで数を表すことで、意欲的に取り組めるようにした。 今後の課題として、プリントや操作活動など活動量を工夫し、表した数同士で大小比較ができるように単元を構成していきたい。 		

